経営羅針盤 ～令和への挑戦～
三菱UFJリサーチ&コンサルティング
251

中部における岐阜の中心性

リニアでブレない地域へ(2)

宮下 光宏（みやした・みつひろ）政策研究事業本部研究開発第1部（名古屋）主任研究員

第1回はリニア時代の東海道新幹線沿線、静岡の話題であったが、今回はリニア沿線の岐阜県駅・中津川に着目したい。品川・名古屋間のリニア中間駅のうち、岐阜県駅（中津川市・美乃坂本駅）と神奈川県駅（相模原市・橋本駅）のみが在来線と直接乗り換えできる駅である。つまり、これまでの在来線利用者にとってのインパクトが強く、今住んでいる人たちにとっての恩恵が大きい。

神奈川県駅は既に橋本駅から東京・品川駅への通勤通学者が多い地域にあり、現在も60分という所要時間は、東京郊外であっても十分な通勤通学圏としてのイメージが語れる。他方岐阜県駅のある中津川は、もちろん名古屋との交流は一定数あるが、経済圏でみた結びつきはそれほど強くない。

中津川駅から名古屋駅までは特急を利用すれば最短でおよそ50分である。これは、名古屋市への通勤通学は可能であるが「中津川は名古屋圏の通勤通学圏だ」と言い切れる状況ではない。これが、リニア利用によって15分程度となることから、運行頻度は遠く及ばないものの、所要時間は名古屋市内地下鉄の通勤通学者並みとなり、都市サービスを享受できる。また、東京方面に目を向けても中津川・品川間は60分であり、通勤通学圏内に含まれることになる。

こうしたリニアのある中津川と大都市との所要時間の短さをみれば、中津川においてリニア名古屋開通時に社会人となっている層、すなわち、現在の中学・高校生は抵抗なくリニアを利用した通勤を受け入れられるだろう。リモートワークと組み合わせることで通勤コストの負担も小さく済み、中津川に住みながら大都市で働くといったライフスタイルはより現実的になる。

中津川の場合には土地の価格や家賃の水準も依然として高騰しておらず、自然豊かな環境に安価に住まうことが可能である。これにより、人口流出抑制と、新たな移住先として人口流入の動きが顕在化してくるだろう。このバランス感が中津川の最大の特徴であり魅力でもある。

岐阜県駅周辺は自然豊かな地域であり、人として自然と共生しながら生活できる。加えて、近隣には、下呂、郡上、飛騨高山、木曽など、わが国を代表する観光地や日本の原風景・伝統文化が息づく地域などが広がり、都会では味わえない自然を介した体験が容易にできる。これに、リニアの利用とリモートワークを駆使すれば大都市の機能も存分に使うことができる。すなわち、岐阜県駅の周辺地域は国内でも数少ない大都市と地方の「いいところどり」のライフスタイルができる国内でも数少ないポテンシャルを有する地域となる。

（毎週木曜日に掲載）